

⑤学童保育、長期間休暇の対応

学童保育に対するニーズも高く、きょうだいがいる、子どもだけで留守番していることが心配であるとの意見があげられている。また、延長時間の設定や、夏休みや冬休みといった長期休暇の対応に対する要望もあがっている。

<学童保育>

- 学校が終わった後、子どもが一人で2時間待っているのは、とても気になる。子どもはさみしいといっている。(保育サービス利用者・関東①)
- 上の子の学童保育が終わり、真ん中の子は上の子と一緒に家に帰ってくる(学童保育に行きたくないと言っているため)。二人で留守番しているのは不安。(保育サービス利用者・関東④)
- このまま働き続けるとなると、学童保育を利用することになるため、一人で留守番させたり、友達の家を毎日行ったり、自宅が子どもの溜まり場になることも心配である。(保育サービス利用者・関西①)
- 学童保育は18時で終わってしまう。保育園と同じように19時まで延長し、仕事を持っていても、お迎えに間に合うようにしてほしい。子どもが一人で帰宅するのは不安である。(保育サービス利用者・関西①)

<夏休み、冬休み等長期間休暇の対応>

- 幼稚園の延長保育を利用し、働きに行きたいと思っていたが、夏休み・冬休みが困る。(子育て支援利用者・関西⑥)

⑥病児保育、病後児保育

病児保育に対するニーズは高いが、利用したことのない人がほとんどであった。利用している人は、子どもが病気の時に頼める人が身近おらず、夫も自分も休めないときは、なくてはならないものとなっている。また、病後児保育に対する要望もあげられている。

病児保育を利用すると、病児保育料、通常の保育料、医療費がかかり、経済的な負担が大きくなる。

<病気の時の対応>

- 朝、発熱して仕事が休めない場合、病児保育に頼るしかない。働き続けていくために、いつでも預かってもらえるところがあるとよい。(保育サービス利用者・関西④)
- 病児保育を利用したことはない。基本的に自分が休むことでなんとかやってくる。どうしても自分が休めなくて、夫が休めるときには、夫に頼んでいる。(保育サービス利用者・関西①)
- 病児保育は、これからは必要だと思う。今は、親が両方とも近くにいるため助けてもらっている。(保育サービス利用者・関西③)
- 昨年、子どもが3人続けて水疱瘡になった。病児保育の利用方法を知っていたら、

使っていたかも知れない。(保育サービス利用者・関西⑥)

- 病児保育は、その病院にかかると預けることができない。近ければ利用したいが、遠いため連れていくのが大変である。駅前にあれば利用しやすい。(子育て支援利用者・関西②)

<病後の対応>

- 病気が治りかけの元気な時などに、普段の保育園もしてくれたらよい。いつも通っている保育園だと子どもも不安にならなくてよい。(保育サービス利用者・関西①)

<保育料>

- 病児保育をお願いする場合、病児保育料、保育園の料金、診察代がかかるため負担が大きい。(保育サービス利用者・関西④)

(2) 医療サービス

夜中に子どもの様態が急変したときなど、子どもの病気に緊急対応してくれる医療機関が不足しているとの意見が多くの人からあげられていた。子どもが高熱を出している中、遠くの病院まで行かなければならなかった人もいる。

- 夜中、子どもの様態が急変したときに、診てくれるところなくて困った。(保育サービス利用者・関東③)

- ほんの一時だが、よく病気をする時期は困る。子どもの緊急の病気に対応してくれる施設が近くにあるとないとでは安心感が違う。(保育サービス利用者・関東④)

(3) 子育て支援サービス、相談先

①遊び場、居場所、つどいの広場、子育てサークル

児童館のような子どもを安心して遊ばせることのできる場、母親も子どもも友達を作ることのできる場に対するニーズは高い。

子育てサークルは、自分主体で動かなくてはならないため、わずらわしかったり、面倒に感じてしまうという意見が多くの人からあげられた。特に、リーダーの負担は大きく、自分の子どもの面倒さえみることができない状況に陥っている人もいる。就労している人は働き始めると活動に参加できなくなるため、参加しにくいといった課題もある。

<児童館>

- 児童館は遊具も多く、遊び場が広く安全なので利用している。特に雨の日など。(子育て支援利用者・関東①)
- 児童館があるとよい。雨の日はとてもよいと思う。(子育て支援利用者・関西②)
- 市内には児童館がなく、親子で集まれる場所がない。(子育て支援提供者・関東①)

<運動できる遊び場>

- ボール遊びができるような環境がない。現在は学校開放でやっているが、休みの日は利用できない。(子育て支援利用者・関東⑥)

<友達を作る場>

- 幼稚園は2年保育を選択したため、それまでに親子ともども友達を作りたいと思い、6月から児童館の幼児サークルに途中参加した。(子育て支援利用者・関東⑤)
- 子どものいる友達がいなかった。子どもにも自分にも友達ができたらよいと思いわんぱく教室に応募した。(子育て支援利用者・関西③)
- 市の栄養教室といった教室に来ている人は、まわりに友達がいない人が多いため、仲良くなりやすい。(子育て支援利用者・関西⑤)
- わんぱく教室は、お母さん自身の友達が欲しくて来ている人もいる。公園では既にグループができていて入りにくい。(子育て支援利用者・関西⑥)

<母親主体のつどいの場>

- 母親自身が主役となり、思いを分かち合ったり、思いを受けてもらえるような場が必要だと思った。そこで母親に焦点を置いた団体を作った。(子育て支援提供者・関西①)

<就労の有無に関わらず預けられる場>

- 働く働かないに関係なく、地域で子どもが集団で過ごせる場所・時間が本来あるべきである。まだまだ、働いている親の子どもを預かる保育が残っているため、保育サービスは働く人が優先となっている。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 広場や子育て支援を専業主婦支援としてではなく、地域の一翼を担う存在としてNPOを見て欲しい。(子育て支援提供者・関東①)

<子育てサークル、つどいの広場などの活動場所>

- 地域には児童館がなく、乳幼児サークルの公民館利用もしにくい。(子育て支援提供者・関東②)
- 子育て支援の活動に公民館を無料で使用できるが、和室では和裁洋裁教室を行っていることもあり、針が落ちていないか、気をつけなければならない。安心して遊ばせることができない。(子育て支援提供者・関西①)
- 保育ルームではないところに荷物を運び、場所を確保しているため、落ち着かない。場所探しは苦勞している。子どもが使うため、トイレ等を工夫している。おまると持参している。(子育て支援提供者・関西⑤)
- 文化住宅の一室を借りている。音のクレームがくるため、安心して語って欲しいのに、気をつかわなければならない。最近は周りからの理解を得てきた。(子育て支援提供者・関西⑥)

<就労している人は子育てサークルに参加しにくい>

- 1年後には職場復帰して保育所に預けることを考えていたので、育児サークルには参加しなかった。近所に同年代の子どもがいる家庭が多かったこともあり、ご近所と付き合った。(保育サービス利用者・関東④)
- 子育てサークルに入っていたが、仕事に復帰したら、付き合いがなくなってしまった。そのサークルには仕事をしている人がいなくて合わなかった。(保育サービス利用者・関西④)

<自分主体で動くことへの抵抗感>

- サークルは月1回当番があるので、大変である。(保育サービス利用者・関東⑥)
- サークルは母親が中心に活動しなければならない。(保育サービス利用者・関西⑥)
- 係が当番制になっているところもあり、当番の時に子どもが風邪をひいて欠席して

- しまうことなど、プレッシャーを感じる。(保育サービス利用者・関西⑥)
- 友達は欲しいが、人の前に立つこと(ex 絵本を読む)が嫌な母親もいると思う。苦手な人は行きにくいのではないか。(保育サービス利用者・関西⑥)
 - 参加者は次第に一緒になって活動するようになるが、最初のうちはお客さんとして受け入れることも重要。(子育て支援提供者・関東①)
 - 市のお金の出し方、支援の仕方がマッチしていない。母親が受身なサービスが多く、母親の力を引き出すサービスがない。そのため母親自身がサークルを作ろうという意欲もなくなってしまう。(子育て支援提供者・関西②)
 - 育児サークルに対してよいイメージを持っていない母親が多い(当番、人間関係が煩わしい等)。子育てサークルのよさをアピールする必要がある。(子育て支援提供者・関西④)
 - これまで、できあがっている中に加わるが多かったため、何か頼まれることを嫌う。責任や辛さを感じてしまう。母親が子ども状態である。自分達で何かしようと思わない。(子育て支援提供者・関西⑦)

<リーダーの負担>

- 子どものためのサークルが、リーダーとなると母親が忙しくなり、子どもは母親を取られた気分になり、ストレスになる。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 育児サークルのリーダーが夫との問題、子どもとの問題で悩んでいることが多い。他の子どもの面倒をみるために、自分の子どもに手がまわらなくなったり、そこで余計にがんばって負担になることもある。(子育て支援提供者・関東②)
- リーダーとしてがんばりたいと考えているのだが、気を抜いてゆっくりしたい時もある。活動が長くなり知名度が上がるにつれて、要求のハードルが高くなる。(子育て支援提供者・関東③)
- リーダーとしてがんばり過ぎて、それによりサークルの中に居場所がなくなってしまいうケースもある。(子育て支援提供者・関東①)
- 支援事業の仕事は義務的な面があるため関わりを続けなければならないし、前向きに考える必要もでてくる。その一方で、サークルのリーダーは、責任感が弱く、自分が楽しいからやっている面もある。そこで嫌なことがあったときに乗り越えることが難しい。(子育て支援提供者・関東②)
- サークルのリーダー自身が問題を抱えていることが多い。自分の子どもに時間をかけたいのにかけられない人が多い。(子育て支援提供者・関東⑤)
- 自分の問題を解決するためにサークルに入ったのに、リーダーになると活動で大変になってしまう。(子育て支援提供者・関東⑤)
- サークルの代表になると、周りの評価を気にしてしまい、楽しいよりも苦となってしまふ。きちんとしないといけないという意識が強く、これしかできないということさらけ出せない。(子育て支援提供者・関西⑥)

②相談相手、相談機関

母親経験者に対して、相談しやすいといった意見があげられている。保健士などの専門家よりも、自分に近い感覚で相談にのってもらえる。

子育て支援提供者からは、母親自身の話や悩みを聞く場の重要性について意見があげられている。その他にも、男性が子育てについて相談できる場所が少ないとの意見もあげられている。

<先輩ママ>

- 相談相手はあまり世代の離れていない先輩ママだと聞きやすい（情報に開きがない）。話に説得力もある。（子育て支援利用者・関東②）
- 水疱瘡等は実際に経験したことのある友達の方が的確に教えてくれる。市の保健婦の悩み相談では、年輩の人が対応しており、自分の欲しい答えをもらえないことがある。育児書に載っているようなことしか教えてくれない。また、よい皮膚科がないか聞くと、自分の立場からは言えないと言われた。こういったことは、友達の方が気軽に聞けるし、教えてくれる。（子育て支援利用者・関西⑤）
- 子育て支援を行うには、乳幼児を持つ母親にスタッフに入ってもらい、当事者の感覚を忘れないようにすることが必要。（子育て支援提供者・関東③）

<悩みを相談しやすい環境>

- 大したことではなくても、重く感じてしまう人もいる。その人の感じ方、関わり方を把握する必要がある。思いつめていると、自己肯定感が低くなる。（子育て支援提供者・関西⑥）
- 母親は自分のことを聞いてくれるところでしか、悩みを話せない。（子育て支援提供者・関西⑥）
- 相談については、自分のことをわかった上で、悩みを聞いて欲しいと感じている。（子育て支援提供者・関東②）
- 支援を受ける＝弱者という扱いを受けることへの抵抗がある。（子育て支援提供者・関東③）
- 母親の悩みを聞くことで子育てを支援している。子育てのノウハウを教えるだけでなく、話すことで母親自身が楽になる。（子育て支援提供者・関西⑦）
- 行政は子どものしつけ等、表面的な相談が中心である。（子育て支援提供者・関西①）
- 行政は母親自身の相談は想定しておらず、対応していない。（子育て支援提供者・関西③）

<男性が相談できる場所>

- 男性にも、自分の弱さを出せる場所、安心できる場所が必要である。最初は広がらなかったが、今は自分達で企画を立てたりしている。自発的に参加した人よりも、妻から無理やり行かされた男性の方が残っている。（子育て支援提供者・関西⑥）

(4) 就労と子育て支援

①就労形態

子どもが小さいうちは、時間短縮勤務やフレックスタイムを利用して、勤務時間の調整を行うなど、柔軟な就労形態を選択できる職場が求められている。

- 上の子のために、4月から時間短縮勤務を使おうと思っている。できるだけ早く帰ってあげたい。今は、17時30分を過ぎたら帰り支度を始めるという線引きをしている。（保育サービス利用者・関東①）
- 仕事はフレックス勤務。3歳末まで短縮勤務を利用できる。（保育サービス利用者・

②育児休業制度、産休制度

育児休業制度は、制度としてあっても、連続して取れない、長期間休めないといった状況にある。また、男性側に育児休業制度を利用してみようといった意識はない。

<育児休業を連続して取りにくい>

- 育児休暇は上の2人は1年間とったが、3人目は連続して取りにくく、4月から保育所へ預ける必要もあったので、半年で復帰した（3人目は9月生まれ。上2人は4、5月生まれ）。（保育サービス利用者・関東④）
- 育児休暇は1年でも長いと感じた。育児休暇が3年あったとしても休めない。また、第二子になると職場の反応が気になる。6ヵ月くらいで復帰しなければならないのかと思う。会社としての考え方ではないだろうが、上司に同じ職場で2回も産休をとられたら困ると言われた。（保育サービス利用者・関西①）

<休暇中の職場の対応>

- 育児休業は、子どもが1歳になる年の3月末まで取得できる。子どもが4月生まれなため、ほぼ2歳まで取得できたが、1歳まで休み職場復帰した。会社では、育休中は派遣社員を雇っていた。（保育サービス利用者・関西①）

<男性の産後休業制度、育児休業制度の取得>

- 夫は建築業で、休みは関係ない。出産の時など、いて欲しい時にいないこともあったので、男性にも出産休暇があるとよい。（保育サービス利用者・関西②）
- 自分（夫）は、育児休業を取りたいと思ったことはない。そういう発想もない。（保育サービス利用者・関西③）
- 自分（夫）は特に育児休業を取りたいと思わない。経済的な問題もある。（保育サービス利用者・関西⑤）
- 自分（夫）の職場では、2、3日出産休暇がとれた（生まれて2ヵ月以内に取りなければならない）。実際、有給等を利用し1週間休みをとった。（保育サービス利用者・関西⑥）

(5) 児童虐待

①児童虐待

子育て支援提供者より、自覚がなく自分の子どもを虐待している人がいるとの意見が出ていた。一方で、「今、子どもを叩きそう」と、行動に移る前に電話をしに来る人もいるとのことであった。

また、グループの中に虐待が疑われる人がいても、上手く話をもっていくことができないといった課題もある。

<自覚のない虐待>

- 自覚のない虐待もある。例えば、引越し中に子どもが邪魔なため、押入れに閉じ込

めている人がいた。(子育て支援提供者・関西②)

- 子どもを叩くことに罪悪感を感じていない人がいた。夫も平気で人を殴る人で、その家庭では、それが当たり前の文化となっていた。ここでみんなに言われて気づき、ショックを受けていた。(子育て支援提供者・関西⑥)

<虐待の未然防止>

- 今、子どもを叩きそうと電話がかかってきたことがあった。電話で話しているうちに落ち着いた。(子育て支援提供者・関西③)
- 雨の日に外へ出られず家にこもっていると、子どもがうるさく、つい怒ってしまう。やむを得ず怒っているのに、近所からも夫からも子どもを怒ってばかりいると言われ、親からもしっかりしろと言われる。ストレスがどんどん溜まり、子どもを殴らなくてすむ安全地が欲しいと電話をかけてきた人がいた。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 虐待が疑われることがあっても、うまく声をかけられないこともある。話を聞こうとすると喋らなくなったり、来なくなったりする人もいる。(子育て支援提供者・関東⑥)

3. 子育て支援サービスの効果

(1) 保育所

保育所に通うことで、母親自身の友達づくりができたとの意見があげられていた。また、教育やしつけ、多様なプログラムが行われることで、子どもに社会性が身についたとの声もあがっている。

その他に、仕事をするために保育園へ預けるだけでなく、子どもと離れる時間を作ることで、体を休めたり、自分らしさを取り戻すことができるといった効果もある。

<母親の友達づくり>

- 保育所で自主延長保育を作ったときは、お母さん達で仲良くなった。すごく仲良くなる学年とそうでない学年に分かれる。(保育サービス利用者・関東④)
- 保育所に通うようになって、同じように働いて、同じように悩んでいる友達ができた。その友達関係は卒園しても続いている。小学校に行ってから、学童が終わってからなど、預け合いをしている。(保育サービス利用者・関東④)
- 子どもが病気の時、近所の人や保育所仲間にも助けてもらった。(保育サービス利用者・関東④)
- 同じクラスで時間帯が合う母親同士で相談しあっている。長子の親とも仲が良く、よい相談相手となっている。(保育サービス利用者・関西①)
- 小さい保育所は保護者で集まりやすかった。上の子は区立に通っていたが、父母会費の中で宴会費があった。集まって話しているうちに、仲良くなってくる。小学校になっても続いている。(保育サービス利用者・関東①)

<社会性が身についた、自立した>

- 同じくらいの子どもが近くにいないため、保育所で接することができてよい。一時保育は年齢を分けていないため、いろいろな年齢の子どもと接することができる。子どもにとって、自分が甘えたり、やってあげたりといった社会性を身につける貴重な時間となっている。(保育サービス利用者・関東③)
- 子どもを保育所に預けて、子どもが自立した。上の子が下の子を迎えに行ったり、自分のことを自分でできるようになった。他の子どもとの人間関係も上手く築けるようになった。けんかも上手くできるようになった。(保育サービス利用者・関東④)

<教育・しつけ>

- 今の保育園を利用して考え方が変わったが、以前は、保育園は預かってくれるだけのところというイメージが強く、4、5歳になったら幼稚園に入れようと思っていた。保育園では、幼稚園のように教育やしつけも行ってくれる。(保育サービス利用者・関西①)

<様々なプログラム>

- 自然を大切にのびのび育てる保育所である。カラーピーマン、いちご、ミニトマト、葉だいこん等、園で栽培したものを給食で食べている。保育所に通わなくては体験できないことだ。(保育サービス利用者・関東④)

<気持ちの余裕、自分らしさを保つために>

- 下の子を一時保育に預けることができ、児童虐待に至らずにすんだ。子どもにも、自分にもよかったと思う。下の子と離れる時間ができて、体だけでなく、気持ち的にも余裕ができた。（保育サービス利用者・関東③）
- 子どもと遊ばなくては「いけない」と思ってしまうところがイヤだった。子どもと接するのに「～しないといけない」と思ってしまうのが嫌だ。預けている方が自分に余裕が持て、そのように思わない。（保育サービス利用者・関東⑥）
- 少しずつでも預けて仕事をしていた方が、自分らしくいられる。（保育サービス利用者・関東⑥）
- 母子関係が辛い時、子どもと距離を置くために保育サービスを利用するのはよいと思う。子育て放棄をするような支援ではなく、保育士と一緒に子育てできるのは、子どもの育ち、母親にとってもプラスである。支え方、良い関係を保つために支援、選択があるのはよいことである。（子育て支援提供者・関西⑥）
- 一時保育に預けているときは、自分はいっさい子育てのことを忘れていられる。一緒にいない分、一緒にいるときにやさしくできる。メリハリがついていい。家で一緒にいるときにはフォローするようにしている。（保育サービス利用者・関東⑥）

（２）子育て支援サービス（つどいの広場、児童館や子育て支援センターの親子教室 等）

子育て支援サービスを利用することで、子どもだけでなく、母親自身の友達づくりができてよいとの声があがっている。子どもも同年齢の友達ができ、楽しく遊びながら、社会性を身につけ、自立していく様子がみられる。

子育て支援サービスには、母親たちが家や公園で遊んでいるだけでは経験できなかった遊びやプログラムが用意されているところも好評である。

専業主婦の母親は、いつも子どもにつきっきりなため、少し離れたところから子どもの様子をみることができるともよいようだ。

<母親の友達づくり>

- 児童館のぴよぴよクラブはお母さん同士、友達になろうという働きが強い。グループを作って友達になるというスタイルが多かった。（保育サービス利用者・関東①）
- 児童館の幼児サークルに参加して、近所のお母さんたちとの付き合いが広がった。近所のお母さんから、他のサークルなどの情報も得られるようになった。（子育て支援利用者・関東①）
- 本当に近所だけではなく、少し離れたところに住んでいる知り合いもできた。（子育て支援利用者・関東⑥）
- 「0.1ひろば」に参加するようになって、友達が増えた。（子育て支援利用者・関東⑦）
- 短い時間では友達になりにくいですが、ここは半年通した活動であるため、母親同士良くなり、相談などもしあうようになった。（子育て支援利用者・関西②）
- 教室が終わってからのほうが楽しい。ネットワークができた。（子育て支援利用者・関西③）
- 仲のよいグループができると、普段も行き来したり、電話したりできるようになる。

(子育て支援利用者・関西④)

<同年齢の友達ができた>

- 児童館の幼児サークルに参加して、同じ年齢の子どもとの関係ができた。(子育て支援利用者・関東①)
- 下の子にも、同じ年代の友達ができ、毎週同じ友達と会える。(子育て支援利用者・関東③)
- 長男と年が離れているため、その友達の中で遊ぶことが多かったが、ここで同じ年齢の友達と遊ぶことがよい。(子育て支援利用者・関西⑦)
- 子どもに遊び方を教えてもらったこと、友達ができ、よかった。子どもにも自分にとっても良かった。(子育て支援利用者・関西②)

<子ども自身が楽しんでいる>

- 子どもが大勢の子どもと遊ぶことを楽しんでいる。家に帰ると「楽しかった」と話している。(子育て支援利用者・関東④)
- 0歳児のときは、ここへ来ても子どもは何もできないが、2、3歳児になると自分の意思で遊んでいる。(子育て支援利用者・関西①)
- わんぱく教室に行くと疲れるようで、家に帰るとすぐに寝てくれる。自分もその間に用事ができる。(子育て支援利用者・関西⑤)

<社会性が身についた、自立した>

- 家にいると子どもと2人きりであるため、集団生活の勉強ができる環境を与えられたことがよかった。子どもがはつらつと遊んでいる。(子育て支援利用者・関西③)
- 子どもが団体の遊び方を覚えて、できるようになった。(子育て支援利用者・関東⑦)
- 20人程の集団で遊ぶことがよい。最初はとまどっていたが、今は楽しんでいるようだ。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 集団で生活するので、しつけもできる。同じ3歳でも、家にいる3歳と保育園の3歳とでは保育園に行っている方がしっかりしている。最初は保育園に預けることにとても抵抗があったが、わんぱく教室に参加して保育園のよさがわかった。(子育て支援利用者・関西⑥)

<遊び方>

- 公園では子どもを遊ばせるだけだが、ここにくると遊びの種類が増える。(子育て支援利用者・関東⑥)
- 手遊び等いろいろな遊び方を教えてくれるところがよい。家でその遊びをすると喜ぶ。(子育て支援利用者・関西④)
- 手遊びなど、自分の知識も増えた。(子育て支援利用者・関西⑤)
- 自分の知らない遊びを覚えてもらうことができた。(子育て支援利用者・関西⑥)

<様々なプログラム>

- 献立表をみて預けたり、行事に参加したいために一時保育に預ける母親がいる。(子育て支援提供者・関西①)

<気持ちの余裕、ストレス発散>

- 育児サークルの場合には、支援者(特にリーダー)の負担が大きい、広場ではそういった負担がなく息を抜いてほっとすることができる。(子育て支援提供者・関東④)

- ストレスの発散ができないため通って来る人が多い。何度も通って来る。(子育て支援提供者・関東⑤)
- 広場だとスタッフと話をしたりしながら中に入っていけるが、最初から話す人はいない。いつのまにか馴染んでいき、居場所となっていく。(子育て支援提供者・関東⑥)
- 児童館の幼児サークルに参加して、自分自身の気も晴れる。(子育て支援利用者・関東④)

<子どもを離れてみる機会、他の子どもとの比較>

- 0歳の時、児童館のぴよぴよクラブに通っていた。子どもから離れたところで遊びを見られたことがよかった。(保育サービス利用者・関東①)
- 他の子どもの面倒を見合うことで、自分の子どもだけではなく他の子どもの発達状況を知ることができ、安心できる。(子育て支援提供者・関東⑥)

<地域の情報収集> s

- 児童館に行くと地域の情報が得られる。(保育サービス利用者・関東⑥)

(3) 専門家のアドバイス、相談

肩の力を抜くことができるような、専門家からのちょっとした一言に救われているという人が多くいた。また、専門的な知識に裏づけされたアドバイスへの信用も高い。

<子どもを預けて働くことに対して>

- 子どもを預けて働くことに悩んでいた時、保育士さんに「いいんですよお母さん」と言われて楽になった。(保育サービス利用者・関東①)
- 保育所に子どもを預けて、自分自身が親として成長させてもらった。一人目の時は、初め、品物みたい預けさえすればよいという感じだったが、園からそうではないと言われた。預けっぱなしでなく、預けられているときの子どもの気持ちを考えたり、一緒にいるときの対応方法などを、直接の言葉ではないが、預ける中で教えてもらった。子どもと一緒に育っていかないと育たないということを保育士から学んだ。(保育サービス利用者・関東④)

<励ましの言葉>

- 家庭保育で見てもらったとき、つまらないことで悩やまないで大丈夫と言われて救われた。家庭的保育をお願いしていた人とは、今も行き来している。子どもも小さいなりに記憶があるようだ。(保育サービス利用者・関東⑥)

<専門家によるアドバイス>

- 育児休暇中は市の育児相談を利用していた。例えば離乳をどれくらい食べさせたらいいか等。体に関することは、保健婦さんに聞いた方がよい。母に聞いても、忘れたと言われる。(保育サービス利用者・関西①)
- 健診の後、発達状態によって連絡がくる。その際、気軽に相談できる。大事なことは保健婦が話してくれる。(保育サービス利用者・関西③)
- 親に相談しても埒があかなかった専門的な相談を保健婦さんにして、安心したことがあった。(子育て支援利用者・関東④)

<子育て関連教室>

○離乳食教室は、月齢に合わせて、全3回行われる（平日の昼に実施）。こうした教室に来ている人は、周りに友達がいない人が多いため、仲良くなりやすい。その後、情報交換したり、育児の悩みをきてもらったりできた。教室では、預かり保育もあり、気軽に利用できる。（保育サービス利用者・関西⑤）

<外に出るきっかけ>

○母親を取り巻く環境が希薄になっているため、ますます引きこもってしまう。電話相談はそこから抜け出すきっかけを支援している。（子育て支援提供者・関西③）

（４）育児休業制度

育児休業制度を利用することで、その期間は全く別の世界を楽しんだという人もいる。子どものために、取れるものなら十分に休みを取りたいとの意見もあげられている。

○育児休業中は、仕事を持ち込まなかったため、全く違う世界を楽しんだ。昼間のご近所をみることができ、近所を散歩しながら、同じ年齢の子がいる家を知るなど、近所のつながりもできた。（保育サービス利用者・関東④）

○長子は8ヵ月で保育所に入れたが、かわいそうだった。仕事の的には1年休んだだけで、復帰したとき何もわからない状態となる。しかし、定年まで働き続けて行く中の3年と思えば、子どものために3年間休んでもいいと思う。（保育サービス利用者・関西④）

（５）インターネット

インターネットの子育て関係のサイトから、仲間づくりをしている人もいる。ネット上のコミュニケーションだけでなく、実際に会う機会もある。

○インターネットで、ボーダーライン児を持つ親の会のサイトがあり、そこで仲間を作って会ったりしている。公園でよく会う人もいる。（保育サービス利用者・関東⑤）

4. 子育て支援における今後の課題

(1) 保育サービス

①保育所

保育所については、入所要件や入所時期の柔軟な対応、待機児童対策について意見が多くあげられている。

また、保護者の交流の場、延長保育の食事サービス、障害児に対する専門的知識の習得について要望があげられている。

その他に、保育園同士をもっと競合させて、よいところをアピールしていくことで、サービス向上が図られることを期待したいとの声もあがっている。

<入所要件、入所時期>

- 区立保育所は一般的で入り込みやすいが、融通が効かないところがある。(保育サービス利用者・関東①)
- 下の子の育児休業中に上の子の保育所通いを辞めると権利放棄となり、一年後に預けることができなくなる。そのため、その期間は上の子も家でみようと思ったが、早目にお迎えに行くなどして辞めずにいた。1年後に必ず入所できるという確約があれば、その期間だけ他の方に権利を譲ることもできたと思う。制度に生活を合わせている状態。(保育サービス利用者・関東④)
- 入所の優先順序を考えて欲しい。育休明けの人が優先されているが、フルタイムの人は、働き始めれば以前と同じ給与がもらえる。しかし、パートはそれ程もらえない。また、一旦働くのをやめると、次の仕事を見つけるのは大変である。そこに不公平感を感じる。(子育て支援利用者・関西②)
- 保育所への入所基準は、点数制になっている。祖母に障害があるため点数を多く持っていて、自分が遊ぶために保育所を利用している人もいる。市も、点数で決めるのではなく、意見をもう少し聞くべきではないか。(子育て支援利用者・関西④)
- 申請時に働く先の証明が先に必要というのもおかしい。(子育て支援利用者・関西④)
- 保育園というのは基本的に職場復帰する日からしか入れない。しかし、預け始めの1ヵ月は子どもが病気になりやすく、会社に行けない状態だった。せめて、職場復帰する1ヶ月程度は先行して預けられたらよいと思う。ずいぶんと楽になると思う。保育所に途中で入園するのは難しい。慣らし保育はこちらではやっていない。(保育サービス利用者・関西①)

<入所定員、待機児童対策>

- 待機児童について、国では減らすと言っているが実際は減っていない。上の子はなかなか保育所に入れなかった。定員枠を融通して欲しい。子ども3人を同じ保育園に入れたい。(保育サービス利用者・関西⑥)
- 子どもの人数に対して、保育設備が少ない。この辺りは同じ年齢の子どもも多く、転勤族が多い。(子育て支援利用者・関西⑥)

○月齢が低いほど枠が狭いため入園しにくい。（子育て支援利用者・関西⑥）

<仲間づくり、保護者の交流>

○上の子のときは、仲間づくりについて保育園から働きかけがあったが、だんだんそういうのがなくなってきた。お母さん達が自主的に活動するのは難しい。園も行政の一つでプロテクトしているようだ。アットホームさがなくなってきた。馴れ合いもよくないため、どちらがよいとはいえないが。（保育サービス利用者・関東④）

○育児の悩みは、職場の人に相談している。保育所に保護者が集まって話せるような会（懇談会）があればよいと思う。夕方のお迎えの時はゆっくり話せない。（保育サービス利用者・関西④）

<延長保育の際の食事>

○3時のおやつの後、食事は何もでない。延長保育には、軽食があるとよい。（保育サービス利用者・関西④）

<専門的知識>

○保育所でも、ボーダーライン児の子どもへの対応方法について把握していて欲しい。小学校に上がってからの生活にも影響する。障害について、保育所もこちらと同じくらいの理解度であって欲しい。（保育サービス利用者・関東⑤）

<競合による質の向上>

○私立の保育所は競合させて、よいところをアピールしたらよいと思う。空きのある施設は、それなりに原因があるのだろうと判断する。そういう施設には、改善して欲しい。（保育サービス利用者・関西⑤）

<利用者ニーズに対応したサービス提供>

○小学校に行くまでの過ごし方は様々だが、保育サービスは行政の縦割りの中でしか選択できない。そのため不満が残る。（子育て支援提供者・関西⑦）

②学童保育

放課後に友達同士集団で遊べる場所や、学童保育があると安心との意見があげられている。

○放課後、友達同士集団で遊べる環境を整備することも必要だと思う。学童保育で、宿題等を見てくれるところもあると聞く。そういうところがあると安心。（保育サービス利用者・関西①）

（2）医療サービス

①小児医療、医療費

小児医療が不足しているために不安を感じている人が多く、それが少子化の要因となっているのではないかと、との意見があげられている。また、医療費負担に対する意見もあげられている。

○小児医療に不安を感じている人が多いために、少子化が進んでいるのではないかと、小

児医療をもっと充実して欲しい。(子育て支援利用者・関東②)

- 市の子どもの医療費は3歳までとなったが、同じ学年でも11月1日以降に生まれた子どもから適応されているため、不公平である。誕生日で区切らないで欲しい。(子育て支援利用者・関西⑦)

(3) 子育て支援サービス、相談先

①専業主婦支援、気軽に預けられる場所

専業主婦が気兼ねなく子どもを預けることができるサービスへの要望があげられている。

- 専業主婦に対しての子育て支援がない(やってあたりまえという感覚)。実はこんなに煮詰まっているのと思う。育児は女がやって当たり前の社会風潮を見直すべき。(子育て支援利用者・関東②)
- ずっと育児にかかりきりだと、一人になりたいときもある。そういう時も預かってもらえるといい。子どももお友達と遊べるからと楽しみに思っているところ。(子育て支援利用者・関東③)
- 垣根が低く、利用することが“当たり前”と思わせるような一時利用の保育施設を作りたい。(病気や緊急時だけでなく、母親がリフレッシュするための利用を目的としたもの)(子育て支援利用者・関東④)
- 安くて気軽に預けられる施設が欲しい。(子育て支援利用者・関西⑥)
- 保育サービスのある母親向けのイベントを開催してほしい。(子育て支援利用者・関東③)

②専門家、相談窓口の対応

相談窓口の担当者には、ある程度の専門的知識と、対応方法の配慮が必要だとの意見があげられている。また、生後3～4ヶ月目に助産婦・保健婦の訪問指導があるとよいとの要望もあげられている。

子育て支援提供者からは、専門家がもっと子育て支援活動に参加して欲しいとの意見があげられている。

<専門的知識の習得>

- 相談に行っても、仕事と割り切って、ひとごとの職員がいる。行政不信になっている。もう少し勉強して欲しい。専門家に母親を理解しようという姿勢がみられない。(保育サービス利用者・関東③)
- ボーダーライン児について、職員や園によって理解度が違うのはどうか。職員が軽度発達障害児の勉強をすとか、保育所にそういう子どもが入ってくることがわかれば勉強会をするだけでも違うだろう。この園は大丈夫かなど探し回る手間が省ける。(保育サービス利用者・関東⑤)

<訪問指導>

- 生後3～4ヶ月目に疲れや悩みがたまってくるので、その時期に助産婦・保健婦などに訪問をしてもらい、家で相談にのってもらえると心強い。(子育て支援利用者・関東⑦)

<子育て支援団体との連携>

- 専門家(資格保有者)が個人として関わってほしい。専門家が活動に参加し、支援についての需給の両面を理解してほしい。(子育て支援提供者・関東①)

③子育て支援サービス(つどいの広場、児童館や子育て支援センターの親子教室等)

子育て支援サービスについては、利用者側は、提供主体が信用でき、資格保持者がいる、サービスの質が高いといった条件がそろっており、価格との兼ね合いがよければ利用したいとの意見があげられている。

子育て支援提供者からは、イベントを行うなどして、参加しやすい雰囲気づくりに配慮しているとの意見があげられている。その他、公民館等を利用する際に、参加者のマナーが悪いことが問題となっているとのことであった。

<設置主体>

- 託児所も市またはきちんとしたところが母体となって運営してくれたら、利用者も安心できる。値段も手ごろで、きちんと預かってくれるところが少ない。(子育て支援利用者・関西②)
- NPO等の保育支援団体のサービス利用は、値段、時間が合い、保育士がいれば利用したい。(子育て支援利用者・関西④)

<整備の充実>

- わんぱく教室はここにしかないため、家の近くにあったらよい。こういった場が少なすぎる。場所は特に保育園でなくても、遊ぶ場所と遊具があればよい。(子育て支援利用者・関西④)
- わんぱく教室は月2回くらいがあるとよい。月1回だと、病気等で休むと次回までが長い。子どもも慣れない。また、1年通してあるとよい。(子育て支援利用者・関西⑤)
- 他の保育園でもこういったサービスを行って欲しい。抽選で当る人はいいが、幼稚園に行くまでに1回も当らない人もいる。(子育て支援利用者・関西⑤)

<参加しやすい工夫>

- 母親も急に子育ての話し合いの場へは出て来ないため、クラフト等の作業を行いながら会話し、徐々に話ができようとしている。(子育て支援提供者・関東⑤)
- 語り合う場への参加を辞めた理由は、時間の問題と、子育ての方法を学びに来た人は、自分のことを語ることに辛くなったり、違和感を感じたようだ。(子育て支援提供者・関東⑥)

<利用者のマナー>

- 公民館等を利用する母親、ボランティアのマナーの悪さが問題となっている。借りる側の意識も高める必要がある。乱雑に使ったり、障子が破れていたこともある。

(子育て支援提供者・関西②)

○公的な場所では、こぼす・汚すが問題になる。(子育て支援提供者・関西⑦)

(4) 育児休業制度、産休制度

育児休業制度については、男性が取得しやすいように、義務にする、企業研修と位置づけるなど、制度を充実させる必要があるとの意見が多くあげられている。その他にも、夫と妻で1ヶ月交代で取得するなど、柔軟な対応ができるようになるとよいといった要望もあげられている。

また、育児休業中の経済的な支援について、要望があげられている。

<男性の育児休業、産後休業取得>

- 職場に妻が専業主婦だったため育児休業をとれなかった人がいた。(保育サービス利用者・関西①)
- 出産後、夫も子どもを見ていたいという感じであった。男性も、子どもが生まれた後、1～2週間ほど気がねなく休める産休制度があるとよい。(保育サービス利用者・関西①)
- 育児休暇を夫と妻で交互にとれる制度があるとよい。1ヵ月程度の休みなら仕事にブランクもできない。(保育サービス利用者・関西①)
- 男性も育児休暇がとれるようにしてほしい。男性の育児参加がなければ少子化はくい止められない。そのためには会社にもっと育児を理解してもらわなければならない。(子育て支援利用者・関東⑦)
- 育児制度等制度は、あっても使えない。せめて、子どもができた父親は義務として休むくらい(大変な時期だけでも)の制度を作らないと、男性は育児に関われない。休んだ部分を補助するくらいのサポートが必要である。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 産後1週間子育てするのは企業研修の1つくらいに位置づけないと、男性は休めないのではないか。(子育て支援提供者・関西⑦)

<育児休業中の経済的支援>

- 育児休暇は2回取得した。制度的には3歳まで取得できるが、育児休業中の雇用保険の給付期間や厚生年金の支払い開始等の時期の関係で、1歳までで職場復帰した。産休中は有給だが、2歳以上の育児休暇は無給となる。経済的な支援があれば3歳まで取っていた。(保育サービス利用者・関西④)
- 法的な経済的支援があれば、男の人でも育児休業をとりやすいのではないかと。(保育サービス利用者・関西④)

(5) 子育てバリアフリー

安心して子どもを連れて乗ることのできる車両、駅のエレベータ・エスカレータの設置、公共施設へのおむつ交換場所の設置等、子育てバリアフリーに関する要望があげられている。

- 安心して子どもを連れて乗れる車両があるとよい。小さい子どもを抱っこして立っているのは辛い。（保育サービス利用者・関西①）
- 駅にエレベーターやエスカレーターがなく、ベビーカーを押している者にとっては不便。（子育て支援利用者・関東④）
- 外出時にオムツを交換する場所が少ない（駅等）。（子育て支援利用者・関東⑦）

（6）児童虐待

子育て支援提供者より、母親に児童虐待に対する意識の変化が見られ、その対処が求められるとの意見があげられている。また、虐待の範囲が明確でないため、支援が難しいといった問題もあげられている。子育てサークル内では、虐待の疑いのある母親をどのように行政に通報したらよいか課題となっている。

＜虐待に対する意識の変化＞

- 最近、普通の顔で虐待を語る母親もおり、問題への対処が求められている。（子育て支援提供者・関東④）

＜虐待の範囲＞

- 虐待であった場合には通報しなくてはならないが、どこからが虐待なのかわからない。専門機関とどのように連携を持つのかも課題である。母親のプライドへの配慮が必要。（子育て支援提供者・関東⑥）

＜サークル内の対応＞

- 広場に来ている母親が、他の参加者（母親）を虐待の疑いがあると行政に通報することについてどう対処するか。（子育て支援提供者・関東①）

＜支援の効果＞

- 虐待防止の方法について、行政側にいかに効果を説明するかという問題がある。虐待を防いだということは、数では証明できない。（子育て支援提供者・関東①）

＜支援が必要な家庭への対応＞

- ファミリーサポート制度など、仕事をしている人は保育料を支払えるため利用が多いが、虐待の危険性のある家庭など、外からの支援が必要なのに利用料が支払えないために利用していない人も多い。周りの環境が整っていなければ、自分達の活動だけで全てをカバーできないため、行政の資源を有効利用して、こういった家庭をサポートできるとよい。（子育て支援提供者・関西③）

（7）子育て支援団体の育成、活性化

子育て支援団体の育成、活性化の課題としては、団体の信用性を確保するためにNPO法人を取得している団体もあるが、事務手続きが煩雑ただけで、何のメリットも感じられないといった人もいる。行政にもっと団体の活動を信用して活用して欲しいといった要望が多くの人からあげられていた。

リーダーの負担が重く、次世代のリーダーが育たないといった課題があり、サークル

リーダーのネットワークづくりやサポートが求められている。スタッフの確保も難しく、参加している人が活動を長く続けていけるような配慮が必要となっている。

活動場所の確保も苦勞しており、賃料の負担が難しいため、常設の施設を持つことができない。公民館は、学区が違っていると借りることができないといった不便さもある。マンションでは、子どもの声など騒音に気兼ねしながら過ごさなくてはならない。

さらに、民間団体で行っているサービスと類似したものを行政が無料で行ってしまうため、競合して民間団体の活動が圧迫されている、との意見が多くの人からあげられた。民間とタイアップする、分担する等、行政と民間が連携した体制を組むことが望まれている。

<団体の信用性>

- 社会的資源があっても、資格の有無に有効性があるとなると、自分達は認知されない。地域に根づいた活動を地道にしている人を活用して欲しい。有償化されるとさらに活かされるだろう。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 行政には、もっと自分達のような活動をしている団体を信頼して欲しい。何か起こったらと責任問題が先にくて、仕事を託してくれない。(子育て支援提供者・関西③)
- NPO等の保育支援団体のサービスを利用するには、信用できる団体かどうかのポイントとなる。(子育て支援利用者・関西②)
- 自治体は、事業を子育て支援団体に委託したのなら、私達を信頼してほしい。(子育て支援提供者・関東⑥)
- 責任問題があるため、市はNPO等の法人格を持っていないと、団体を信用しない。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 信頼を得るためだけにNPO法人格を取得したが、責任だけ課せられて、メリットは何もない。(子育て支援提供者・関西④)

<リーダーのフォロー、育成>

- サークルのリーダーが悩みを共有あるいは打ち明けられる場が必要である。例えば、育児サークルのネットワークや、リーダーがお客様として息抜きできる場である。(子育て支援提供者・関東②)
- 事業に満足できる人の中から、次を担う世代が出てほしい。(子育て支援提供者・関東③)
- 育児サークルに対するニーズの高まりと、サークルのリーダーへのサポートがないというギャップが起きている。(子育て支援提供者・関東④)
- 行政との対応、後継者の問題などでコーディネーターが必要。(子育て支援提供者・関東⑤)
- 誰か一人ががんばっていると、サークルの次のリーダーが育たない。メンバーに自分達が主体的に動く意識がない。(子育て支援提供者・関西⑥)

<スタッフの確保・育成>

- 人材の確保が重要。新しいスタッフをいかに育てるかについて、考えていく必要がある。(子育て支援提供者・関東④)
- 時間帯等に柔軟に対応できるように、子どものいないスタッフも必要。(子育て支

援提供者・関東⑤)

- 長く続けていくためには、スタッフが負担に感じないようにしていかなければならない。(子育て支援提供者・関西④)
- スタッフの研修に行政から費用を援助してほしい。(子育て支援提供者・関東③)
- スタッフとして育ってきている人をもっと上手に支援する必要があるのではないか。(子育て支援提供者・関東③)
- 常設なため、メンバー集めに苦勞している。誰か一人休んでも、代わりに出てくれる人を探すのが大変である。(子育て支援提供者・関西④)
- 今後の活動を充実させていくため、子育て支援の方法について、講師を招いて勉強会を開いたり、他の団体の人に話しを聞くなどしながら、勉強していきたい。(子育て支援提供者・関西⑤)
- 保育士の資格は後からとった。同じ母親でも、専門的な立場からだ、関わり方・視点が変わってくる。(子育て支援提供者・関西⑦)

＜スタッフへの報酬＞

- 有償無償に関わらずスタッフとして働きたいという人と、有償でないとダメという人がいる。(子育て支援提供者・関東⑥)
- 有償でマネジメントに責任を持つ人と、ボランティアのスタッフを分ける人がある。お金がからむと問題が複雑になる。(子育て支援提供者・関東①)
- スーパーのパート程度の時給は必要。お金がなくては、人を上手に使えない。(子育て支援提供者・関東③)

＜活動場所＞

- 公民館を借りて、活動場所としている。利用料は1時間700円、1回3時間2100円である。利用者が少ないため、この金額でも採算をとることが難しい。(子育て支援提供者・関西③)
- 福祉会館、町会の建物等を利用しているが、有償ボランティアの理解がないため、貸してもらえない場合もある。(子育て支援提供者・関西⑤)
- 公民館は前もって申し込まないと利用できないため、常設できない。(子育て支援提供者・関西⑥)
- マンションの集会室は5年間使用しているが、上の階の住人からクレームがくる。子どもの走る音も騒音として捉えられてしまう。(子育て支援提供者・関西⑦)

＜プログラムの内容＞

- 母親の悩みを書いた紙を参加者間で回覧しているが、上手くフィードバックできていない。他の母親も悩みに対する意見をお互いに言い合えるようになるとよい。(子育て支援提供者・関東⑤)

＜活動に関する情報提供方法＞

- 自治体と情報の連携ができるとよい。任意団体だと有料の情報誌にしか掲載できない。公的な機関の媒体でも広報できるようにしてほしい。(子育て支援提供者・関西②)
- 自治体の広報に民間活動の宣伝は掲載できない。(公民館等で活動している場合は記載できる)。そのため、幅広い広報活動ができない。(子育て支援提供者・関西③)
- 民間サークル活動は広報等の情報提供には載せてもらえない。ネットワークも作ってはいけないようになっている。(子育て支援提供者・関西①)

<サービス料>

- 無償だと家族の理解を得にくく、社会的な価値づけもなされにくい。その一方で、専門家への相談は有料だから行かないという人もいる。(子育て支援提供者・関東②)

<行政サービスと民間サービスの競合>

- 行政よりも民間団体の方が、活動の内容が進んでおり、行政が後ろから着いてきている状態の中で、行政が民間のよいところ取りをし、無料や安い値段でサービス提供されると、これまでがんばって活動してきた民間団体が潰れてしまうことがある。(子育て支援提供者・関西①)
- 利用料は1回300円だが、行政では無料でサービスしているもの多いため、利用料をこれ以上あげることは難しい。(競合先が行政だと利用料ではかなわないため、民間団体が圧迫されている)。行政と民間団体との役割分担や連携方法を検討することが求められる。(子育て支援提供者・関西④)
- 民間団体が採算がとれるように利用料をとると、値段が高くなってしまう。民間と行政がタイアップして、受益者負担が少なくなるように働きかけすることが必要である。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 親子コンサートを参加費3000円で開催する。その価値をわかって参加してくれる人もいるが、行政が無料コンサートを行っているので、やはりそちらにはかなわない。助成金があれば参加者の負担を軽減できる。行政との料金格差が埋まるとよい。(子育て支援提供者・関西⑦)

<継続した活動>

- 子育てが終わったら活動に関わらない人が多い。どうしたら、子育てが終わった後も活動に関わってもらえるのか。(子育て支援提供者・関東②)
- 将来的には、ここでの支援を終えた人に対して、継続したケアも行っていきたい。(子育て支援提供者・関西⑤)
- 2歳半から就園前の子どもを対象としている。幼稚園に行ってからでも関わりをもてるようにしたい。(子育て支援提供者・関西⑦)
- 幼稚園、小学校に行った子どもから、参加したいと要望があるが、時間・場所の問題等がある。夜まで使える場があるとよい。(子育て支援提供者・関西⑦)

<ネットワークづくり、サービスの連携、役割分担>

- 時間限定参加のワークシェアリング等、工夫して色々な人に参加してもらう必要がある。(子育て支援提供者・関東⑤)
- 横のつながりが大事である。ここでは、行政、福祉関係団体、子育てサークル、保育所、保健所、支援センター等のネットワーク作りを重視している。行政は縦のつながりしかない。(子育て支援提供者・関西②)
- 保健所に悩みを抱えている母親が来たら、こちらを紹介してもらうようにしている。(年1回あるかないか)(子育て支援提供者・関西⑤)
- 行政ができることと、企業のできることの狭間で、自分達がインフォーマルでできることを考え、活動している。(子育て支援提供者・関西⑥)
- 施策に、家庭支援と名のつくもの、肩書きはたくさんあるが、どう機能しているのか。既にあるものの中に、活用できる場所・人があるはずなのに、新しいものを作ろうとする。国の政策を抜本的に見直す必要がある。(子育て支援提供者・関西⑥)

<行政の支援>

- 草の根の運動と行政の上からの政策が一致することにより、社会的なムーブメントとして認識される。（子育て支援提供者・関東①）
- それぞれの組織の持ち味を活かした支援をして欲しい。（子育て支援提供者・関東⑥）
- 当事者を直接的に行政が支援するのではなく、育児を経験した元当事者と現在の当事者という関係を外側から行政や民生員が支えて欲しい。（子育て支援提供者・関東①）

<財政面の課題>

- 電話相談を週1回行っているが、回数を増やしたい。それには財政面で問題がある。（子育て支援提供者・関西③）
- 常設の広場は、商店街の理解を得て、その中に持つことができた（駅からは少し離れている）。今年1年間は大阪府の商店街空き店舗活性化事業の助成を利用できたが、今年の4月からは支援がなくなるため、家賃の支払いがきつくなる。（子育て支援提供者・関西④）
- 今年度は家賃の半分を国・市が負担してくれたが、運営は苦しい。（子育て支援提供者・関西④）

（8）経済的支援

子どもの数を増やすためには、経済的な支援が必要であるとの意見があげられている。

- 子どもの数を増やすには、経済的支援が必要である。保育料、医療費、全てにおいて負担が大きい。保育園の内容には満足しているが、収入の半分が保育料でなくなるのは負担が大きい。（保育サービス利用者・関西④）
- パートで働き、夫婦の収入を足すと児童手当がでなくなる。（子育て支援利用者・関西②）

（9）自治体のサービス提供のあり方

①サービスの格差

公立と私立かによって、保育園に差があるといった意見があげられた。

また、自治体によってサービスに格差があることも問題であるとの意見が多くの人からあげられている。

<公立と私立の差>

- 大きくみた傾向だが、区立は園によって差がある。同じ園でも、先生の差が大きい。一方、私立は先生の移動がないため、職員の差は小さく、働くお母さんを応援するスタンスでいてくれる。（保育サービス利用者・関東①）

<自治体によるサービス格差>

- 地域によってサービスに差があるのは問題だと思う。（保育サービス利用者・関西①）
- 自治体によってサービスが違うのもおかしい。子どもの医療費についても、枚方市

は3歳までは無料だが、他県では小学校入学前まで、1歳まで等、違いがある。(子育て支援利用者・関西③)

○補助金、助成金等、大きな市にはお金がつき、小さい自治体にはつかないのは不公平である。そういった支援に関する情報もまわってこない。(子育て支援提供者・関西①)

○サービスの充実している地域に住み替える人がいる。行政間に格差がある。(子育て支援提供者・関西⑥)

○行政間の格差が大きい。(子育て支援提供者・関西⑦)

②自治体の区域を越えたサービス

自治体の区域を越えたサービスを受けたい、との意見が多くの人からあげられている。特に、子育て支援提供者より、活動領域を広く持つと、他区域の施設を使用できないことが活動のネックとなっている。

○他市のサービスを受けられるとよい(子育て支援利用者・関東⑤)

○地域の会館を、校区外の人には利用できない。(子育て支援提供者・関西②)

○公民館は近くにあっても、その市民でないと利用できない。(子育て支援提供者・関西③)

○公民館は住民の利用に限定されており、市外の人には利用できなかった。(子育て支援提供者・関西⑥)